

# 若者・女性がより暮らしやすく、 働きやすい魅力的なまちづくり －事例から見る施策の検討－

2025年12月11日



公共デザイン本部 足立 文

## I. 社会増減の現状

---

## II. ウェルビーイング指標 【参考】

---

## III. 他都市における施策例

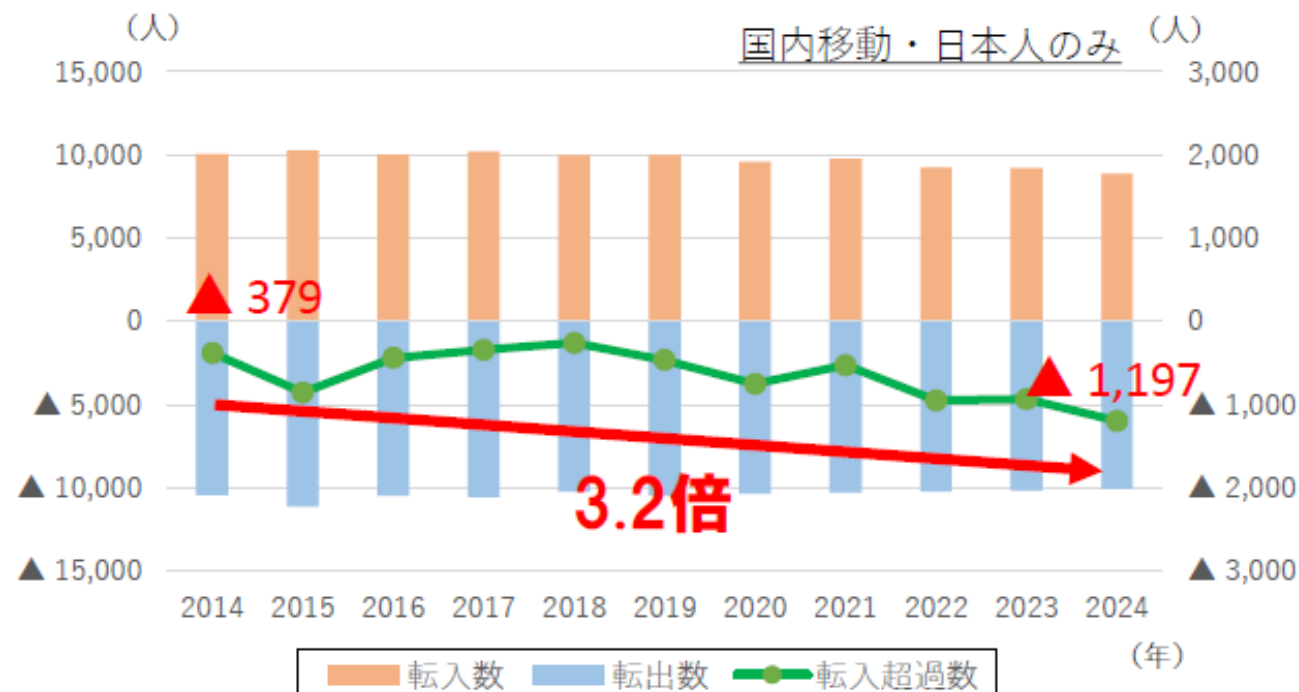
---

## IV. おわりに

---

# I . 社会増減の現状

---

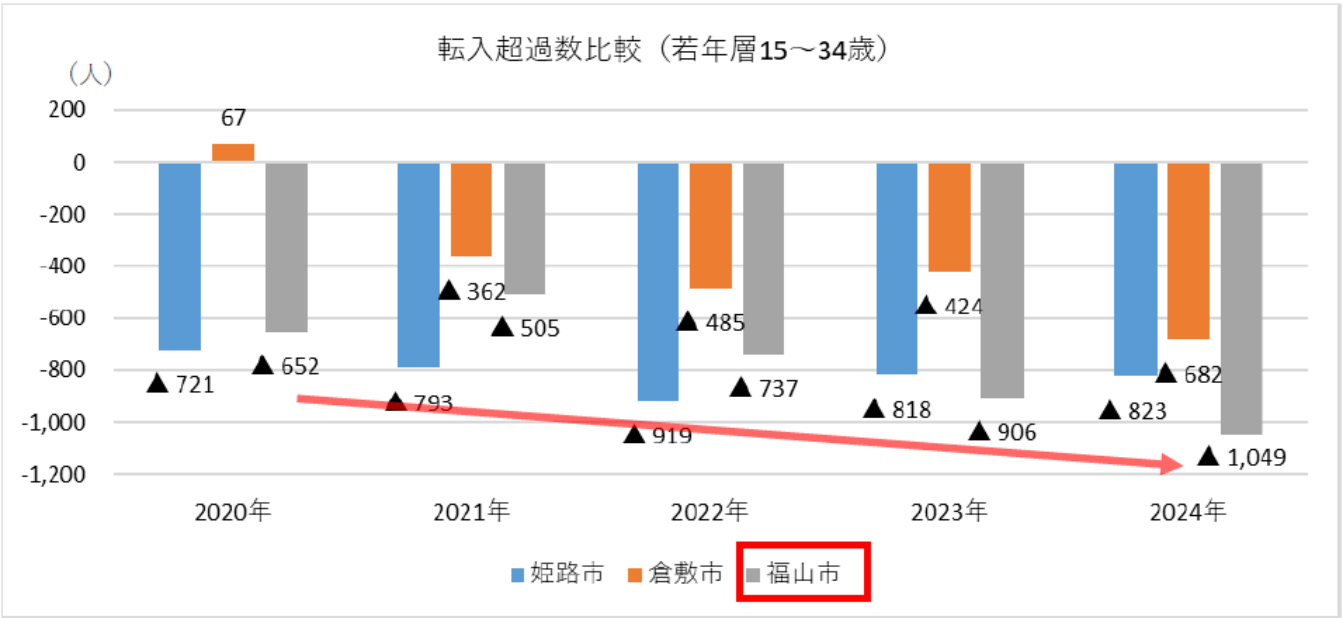


3

- ・ 類似自治体と比べて、転出超過数が多いとともに、拡大傾向にある。

(人)

年	姫路市			倉敷市			福山市		
	転入者数	転出者数	転入超過数	転入者数	転出者数	転入超過数	転入者数	転出者数	転入超過数
2020年	7,096	-7,817	▲ 721	6,689	-6,622	67	5,449	-6,101	▲ 652
2021年	7,131	-7,924	▲ 793	6,396	-6,758	▲ 362	5,684	-6,189	▲ 505
2022年	7,117	-8,036	▲ 919	6,370	-6,855	▲ 485	5,345	-6,082	▲ 737
2023年	7,048	-7,866	▲ 818	6,344	-6,768	▲ 424	5,234	-6,140	▲ 906
2024年	7,110	-7,933	▲ 823	6,114	-6,796	▲ 682	5,052	-6,101	▲ 1,049

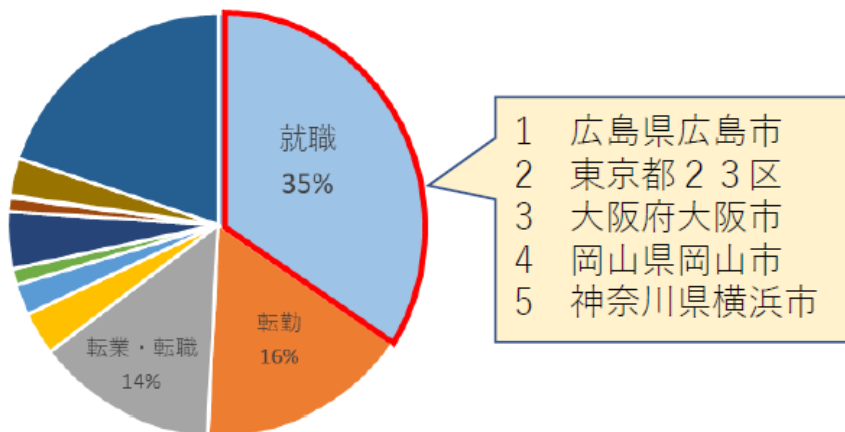


資料：総務省「住民基本台帳人口移動報告」（2024年）  
※国内移動、日本人のみ

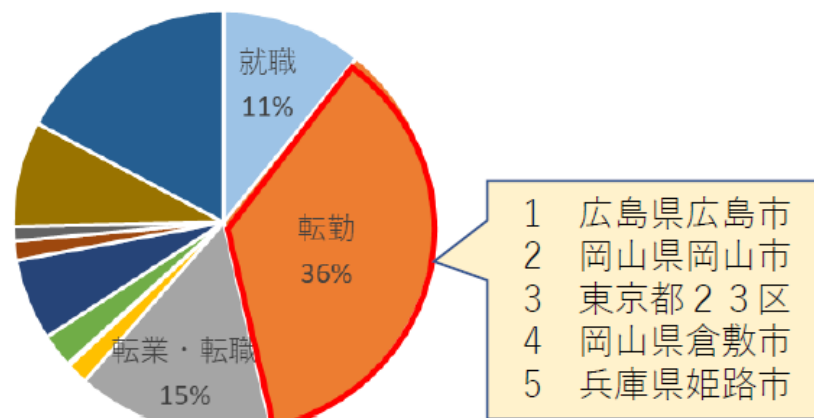
- 20代男女、30代男性は就職や転勤での転出が多く、東京や大阪などの大都市以外にも、広島市や岡山市など近場での転出も多い。

※広島県乙調査：市町に転出入届を提出する人を対象に、移動理由や性別等を任意で調査するもの。

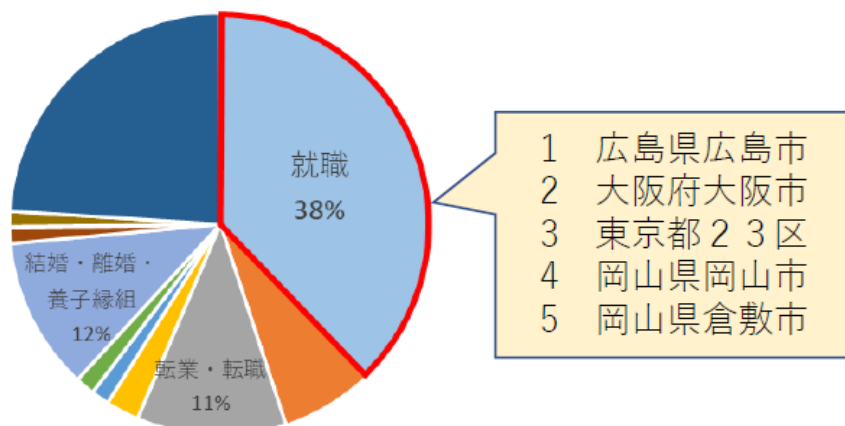
20代男性 移動理由



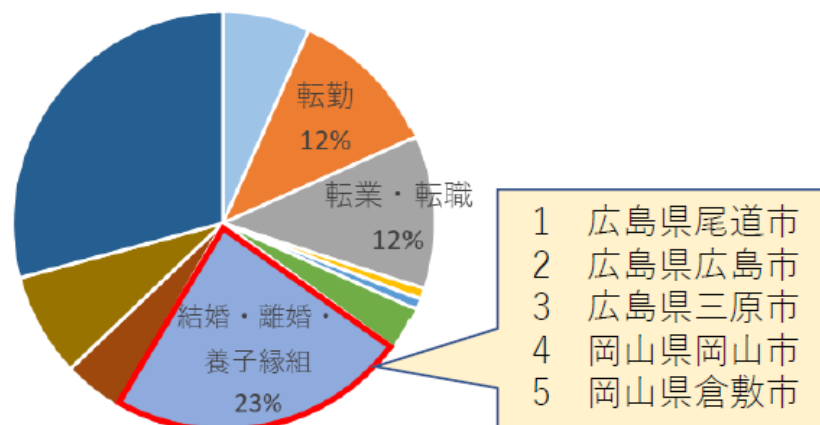
30代男性 移動理由



20代女性 移動理由

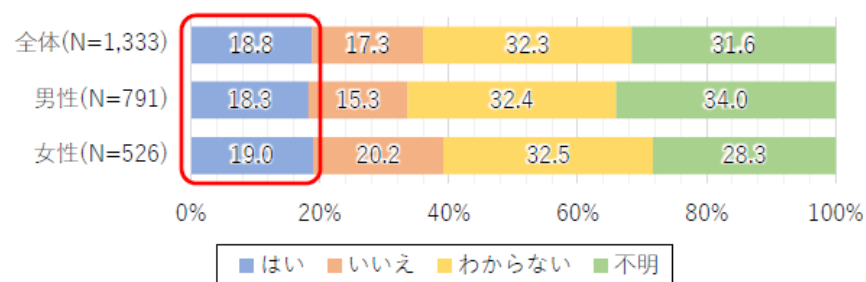


30代女性 移動理由

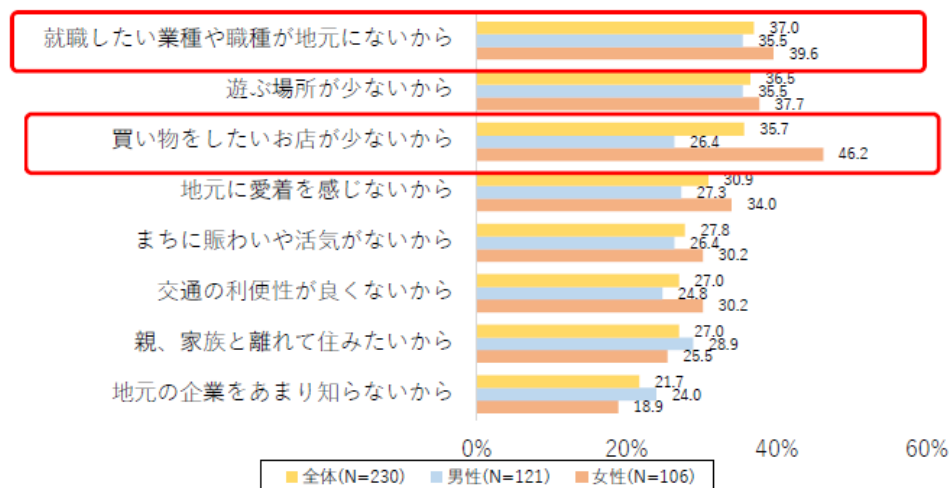


資料：広島県「広島県人口移動統計調査(乙調査)」(2024年)、総務省「住民基本台帳人口移動報告」(2024年)

## 【将来、住んでいる市に戻ってきたいと思うか（高校生）】

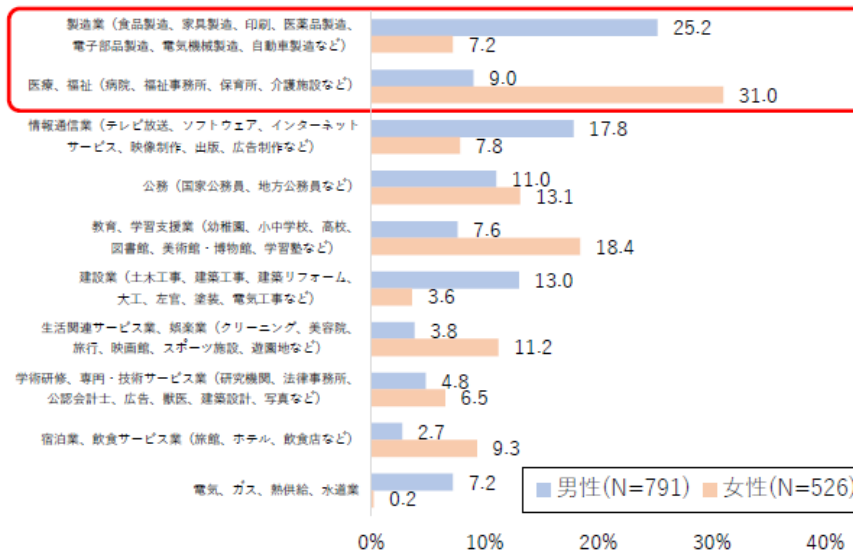


## 【高校生が将来、戻ってきたいと思わない理由】



資料：福山市「若者（高校生）の定住志向に関するアンケート調査」（2020年7月）※性別で「その他」「不明」の回答者がいるため、男女の計が全体と一致しない。

## 【高校生が将来、働きたい業種（上位10項目）】

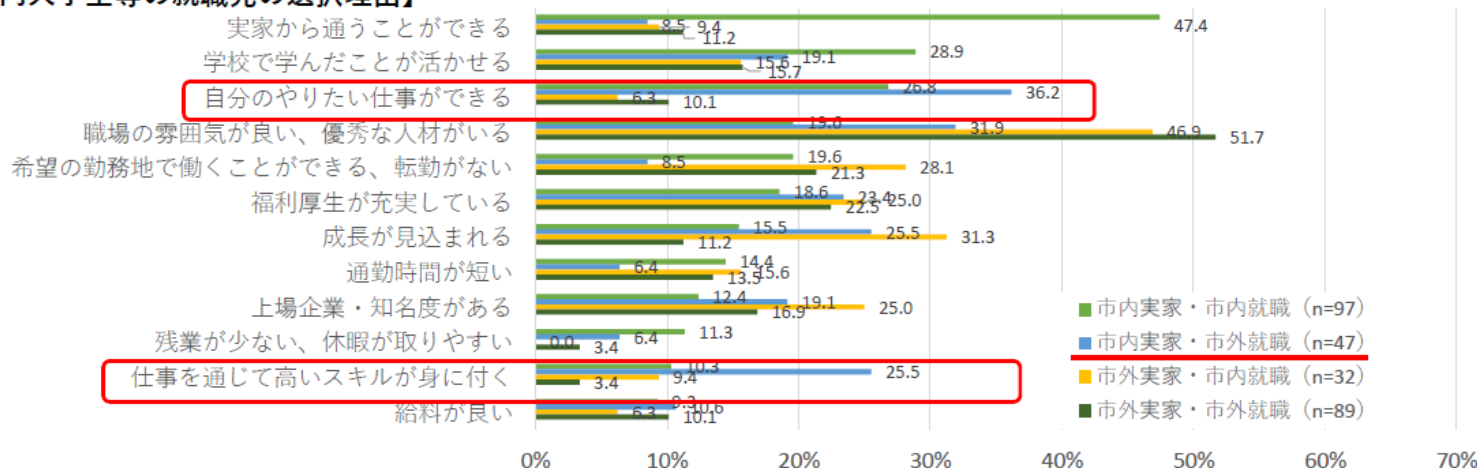


- 高校生への調査では、将来福山市に戻ってきたいと思わない理由は「就職したい業種や職種が地元になから」が男女ともに多い。女性は「買い物をしたいお店が少ないから」が一番多い。
- 将来働きたい業種では、男性が製造業、女性は医療・福祉が多い。またこれらの2業種は、他業種と比べ、男女の回答割合の差が大きい。

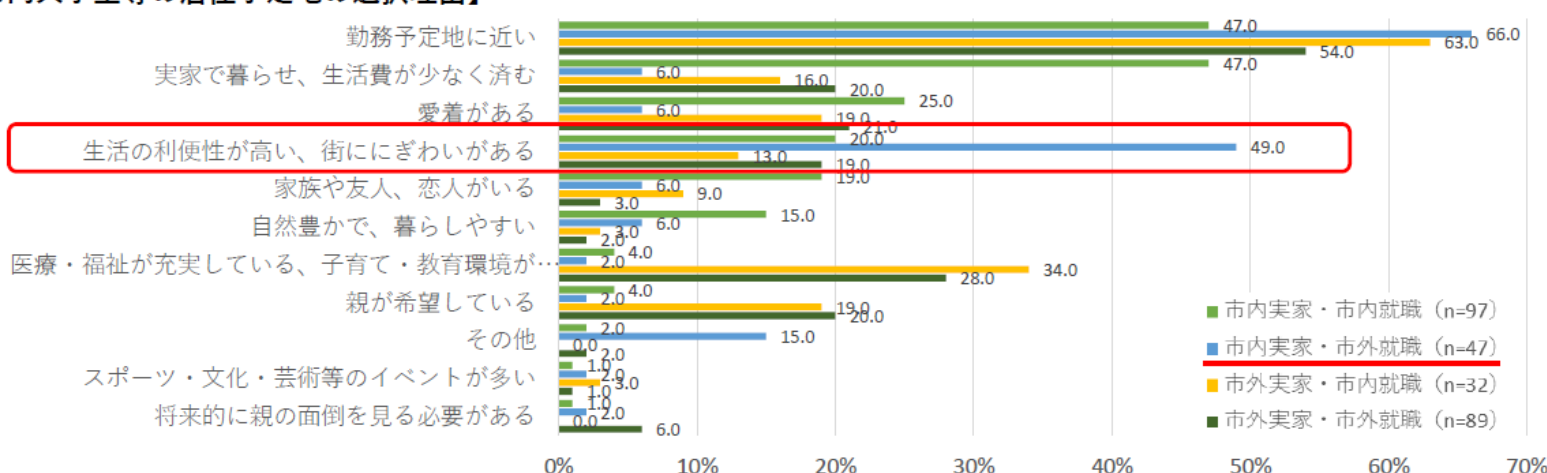
資料：福山市「高校卒業後に関するアンケート調査」（2021年7月）

- ・ 市内に実家がある市内大学生等のうち、市外就職予定者の就職先選択理由として、「自分のやりたいことができる」、「仕事を通じて高いスキルが身につく」を選んでいる人が多い。
- ・ また、居住予定地の選択理由として、「生活の利便性が高く街ににぎわいがある」を選んでいる人が多い。

## 【市内大学生等の就職先の選択理由】



## 【市内大学生等の居住予定地の選択理由】



資料：福山市「市内大学生等への就職に関するアンケート調査」（2023年11月～2024年1月）

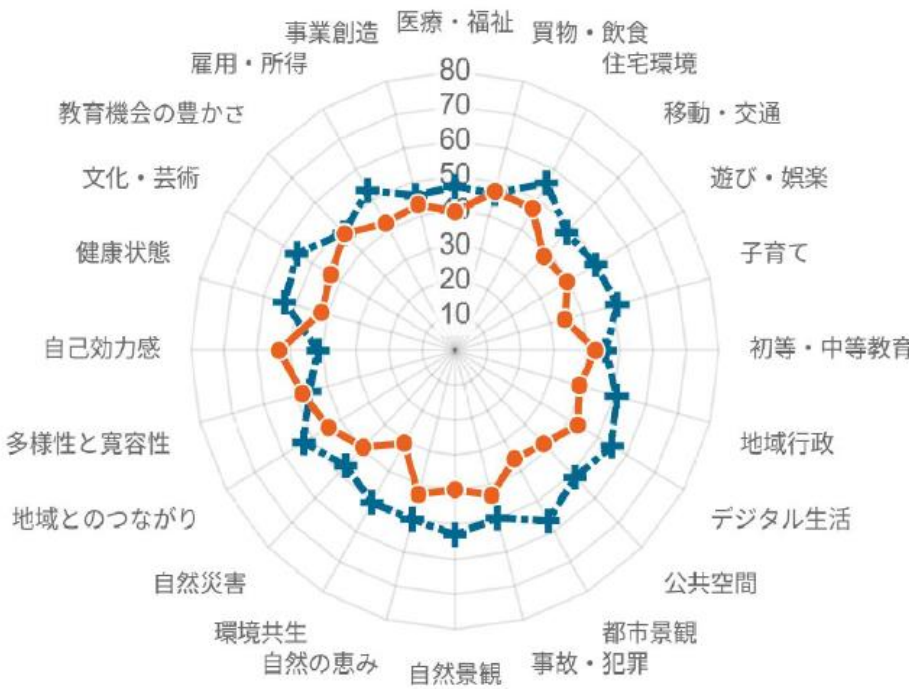


## Ⅱ. ウェルビーイング指標 【参考】

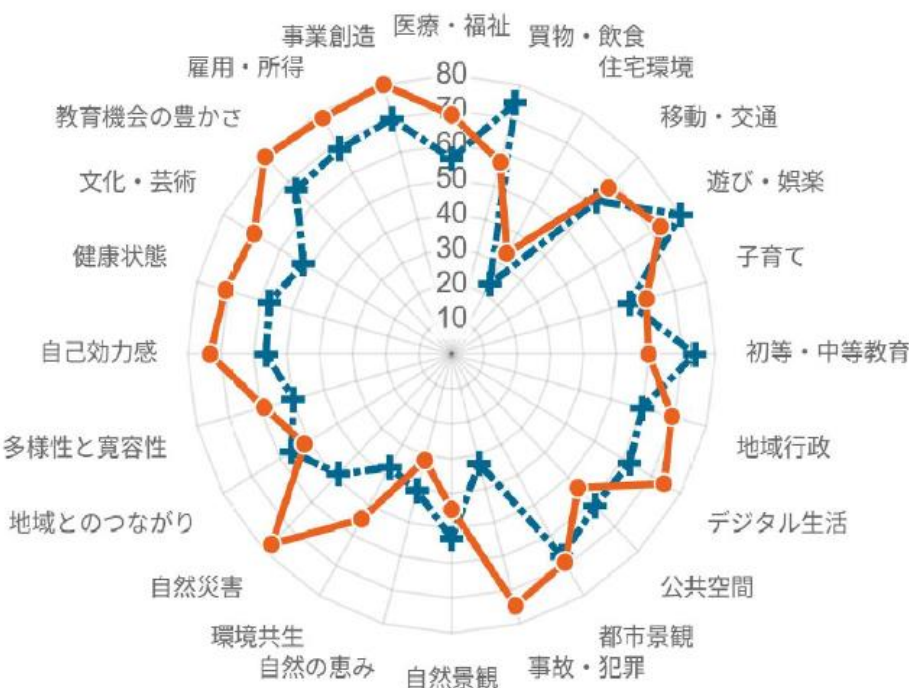
---

# 1. 福山市の現状

福山市



参考：千代田区

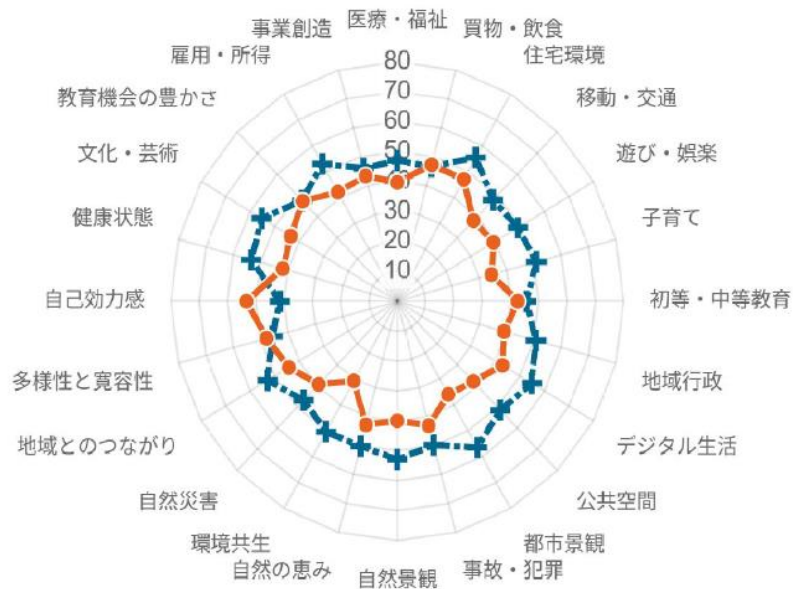


出所：2025年度版Well-Being指標全国調査（デジタル庁）

— 主観データ  
- - 客観データ

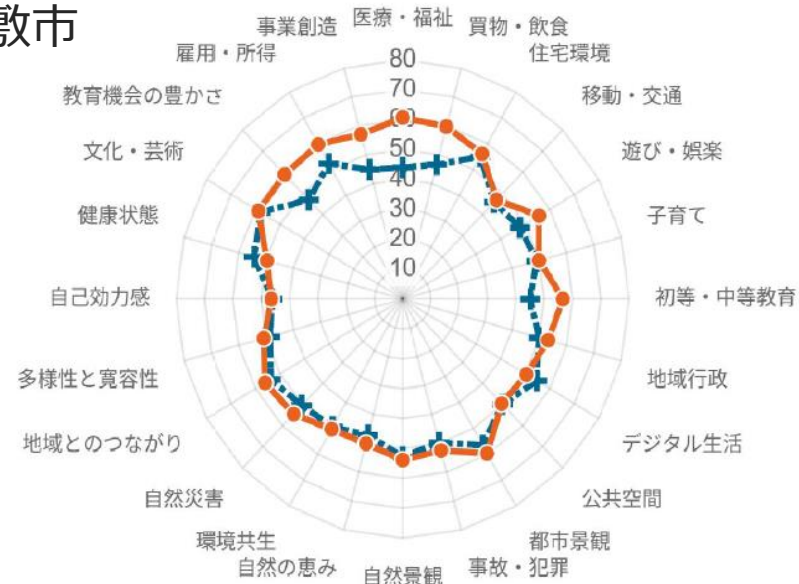
## 2. 他都市との比較

### 福山市

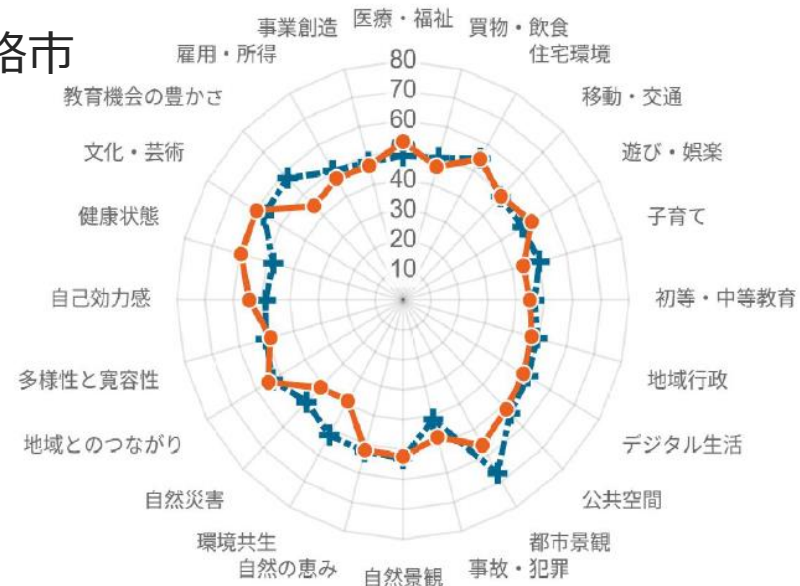


— 主観データ  
- - 客観データ

### 参考 倉敷市



### 参考 姫路市



出所：2025年度版Well-Being指標全国調査

## Ⅲ. 他都市における施策例～ものづくりのまちを参考に～

---

1. 働く場としての魅力向上
2. 暮らす場としての魅力向上

## 1. 働く場としての魅力向上

### (1) 栃木県 女性×モノづくり企業エンパワーメントモデル事業

#### 事業の目的と背景

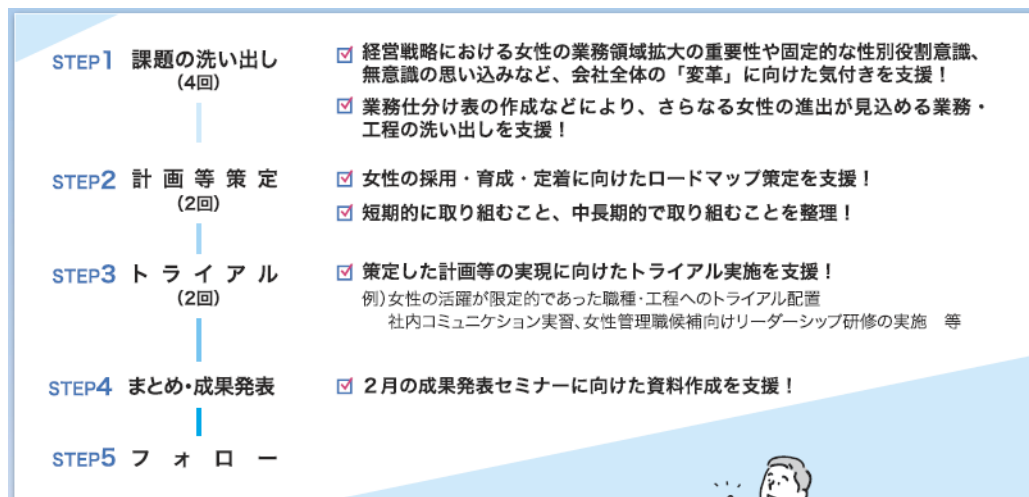
- ◆ 栃木県では、若年女性の県外転出超過が続き、婚姻率・出生率の低下にも影響
- ◆ 県内の基幹産業である製造業において、女性の就業希望と実際の職域にギャップ（希望は営業・企画・検査・技術職等、現実には事務職中心）。
- ◆ 2024年3月に「女性に魅力ある雇用・産業創出等に向けた事業戦略」を策定
- ◆ 本モデル事業は、製造業における女性活躍の場を拡大し、若年女性の地元定着を促進することを目的

#### 事業の内容

- ◆ 実施主体：栃木県（委託先：株式会社TMC経営センター）
- ◆ 事業年度：令和6年度（2024年度）
- ◆ 事業予算：3,000千円（県予算）
- ◆ 対象企業：県内製造業を営む中小企業（年度内に3～4社を選定）

#### 事業の内容（つづき）

- ◆ 支援内容：
  - 専門コンサルタントによる現場診断・計画策定支援
  - 女性の職域拡大に向けた業務設計・環境整備支援
  - 採用・配置転換・研修制度の見直し支援
  - 成果発表セミナーでの事例共有と普及啓発



出所：栃木県 参加企業募集チラシ

# 1. 働く場としての魅力向上

## (1) 栃木県 女性×モノづくり企業エンパワーメントモデル事業

### 事業の成果と評価

- ◆ 初年度は4社がモデル企業として参加。
- ◆ 亀田産業株式会社では、出荷工程に女性従業員を配置し、業務改善と職場の多様化を実現。
- ◆ 他企業でも、検査・組立・営業部門への女性登用が進み、社内意識改革が進展。
- ◆ 成果発表セミナーでは、参加企業が取組内容を報告し、県内他企業への波及を図った。
- ◆ 定量的成果（女性従業員比率の向上等）は今後の継続支援により検証予定。

### 福山市への示唆と活用可能性

- ◆ 製造業が基幹産業であり、若年女性の職種ミスマッチによる転出超過が課題。
- ◆ 既存の地元産業内で女性が活躍できる職域を創出する点で親和性が高い。
- ◆ 地元企業との連携による「女性活躍モデル企業」支援事業の創設が有効ではないか。



種別	部門	業務カテゴリ	業務内容の説明	男女別の 従事割合	代謝率 レベル	経験	資格	具体的な資格名 ※資格が必要な場合はご記入ください
航空部	部品課	TOS受領/製造指示	管理課からTOSを受領し各職場へ配布する	①女性0%・男性100%	1：低代謝率	必要	不要	
		コア加工	TOSに従いバニカムコアを加工する	②女性25%・男性75%	1：低代謝率	必要	必要	顧客作業者認定
		部品加工	TOSに従い部品を加工する	②女性25%・男性75%	1：低代謝率	必要	必要	顧客作業者認定
		縫製加工	TOSに従い縫製品を加工する	③女性50%・男性50%	1：低代謝率	必要	必要	顧客作業者認定
		工程検査	次工程の作業が完了し次工程に渡す時に検査し押印する	①女性0%・男性100%	1：低代謝率	必要	必要	顧客作業者認定
		仕上げ	TOSに従い製品を最終仕上げし品質保証課へ引き渡す	①女性0%・男性100%	1：低代謝率	必要	必要	顧客作業者認定
		検品	出荷（梱包）前に完成品の形状や員数を確認する	①女性0%・男性100%	1：低代謝率	必要	不要	
		出荷	梱包された完成品をミレクラントラックに積載する	①女性0%・男性100%	1：低代謝率	必要	必要	フォークリフト運転資格
	品質保証課	最終検査	TOSに従い製品が要求通りに完成しているか検査する	①女性0%・男性100%	1：低代謝率	必要	必要	顧客作業者認定



## (2) 群馬県太田市 ワークライフシナジー事業

### 事業の目的と背景

- ◆ 製造業中心の地域で女性の正社員比率が低く、固定的性別役割意識が強い。
- ◆ 若年女性の転出超過と非正規就業の多さが課題。
- ◆ 若い世代の意識改革と女性の多様な働き方推進を軸に「ワークライフシナジー計画」を策定。
- ◆ 労働に対するマインドセットを変え、女性が家事育児に捉われず、就職か起業かを自由に選択できる多様な働き方が認められる環境を創出することを目的に設定。

### 事業の内容

- ◆ 実施主体：太田市
- ◆ 事業年度：令和2～4年度
- ◆ 事業予算：17,300千円（地方創生交付金活用）
- ◆ 連携組織：子育て、教育機関等（一般社団法人 なでしこ未来塾、NPO法人キッズバレイ、関東学園大学、サンダーバード(株)、(株)タカラコーポレーション）

### 事業の内容（つづき）

- ◆ 事業内容：
  - キャリア教育支援プログラムの実施
    - ・ 主な支援対象者：中学生・高校生女性が働くことに対して中学生のうちから肯定的な意識を持つためのキャリア教育プログラムを実施
  - ワークライフ&インターン事業の展開
    - ・ 主な支援対象者：大学生仕事と育児の両立体験プログラムをキャリア支援事業として実施
  - 女性起業家支援&ネットワーク構築
    - ・ 主な支援対象者：起業を検討中の女性女性起業塾や市内起業家のネットワーク作りまでを一貫して開催



出所：内閣官房「デジタル田園都市国家構想交付金を活用した女性活躍の取組事例集」、太田市地域再生計画等

# 1. 働く場としての魅力向上

## (2) 群馬県太田市 ワークライフシナジー事業

### 事業の成果と評価

- ◆ 若年層の意識変容と定着傾向  
参加者：中高生・大学生対象のキャリア支援施策に延べ数百名規模が参加。  
意識変容：地元就職志向の高まりなど肯定的なアンケート結果  
転出抑制：若年層の流出傾向が緩和。東京圏からのUIターンが増加
- ◆ 女性起業の促進  
起業：15名中10名が起業（R4年度）  
卒業生ネットワーク：9期で100名以上  
心理的效果：ロールモデル可視化で意識向上

出所：令和5年度 内閣府男女共同参画局 地方創生推進交付金事業報告書

### 福山市への示唆と活用可能性

- ◆ 製造業が基幹産業であり、若年女性の職種ミスマッチ、職場や地域の無意識の男性優遇が課題。
- ◆ 若者のキャリア観醸成、働き方体験の提供、女性自身の起業まで一気通貫での支援。
- ◆ 若者の意識変容や流出傾向が緩和されるなど効果創出。
- ◆ 地元の学校や地元の企業との連携可能性等を考慮して実施。





## 2. 暮らす場としての魅力向上

### (1) 愛知県豊田市 女性に選ばれる都心づくり

#### 事業の目的と背景

- ◆ 中心部における商業地が郊外の大型店の進出などで、人流が減少。若年層から買い物やランチを楽しめる店が少ない、子連れで行ける場所がないという声。
- ◆ 若年女性の転出超過も問題。
- ◆ 中心市街地において、暮らしやすさを高めることで、若年世帯をつなぎとめる。
- ◆ 女性や子育て世帯に焦点を当てた都心再生を強化。

#### 事業の内容

「コミュニティ施設『MAMATOCO（ママトコ）』および STREET & PARK MARKET 開催による都心賑わい創出事業」

- ◆ 実施主体：豊田市中心市街地活性化協議会豊田まちづくり(株)（三セク）
- ◆ 事業年度：平成26年度（企画・整備）～

#### 事業の内容（つづき）

- ◆ MAMATOCO（親子向けコミュニティ施設）
  - カフェ（子育て支援者や地元農家運営）
  - レンタルスペース、雑貨販売ブース
  - 地産地消の飲食や子育て関連イベント
- ◆ STREET & PARK（月例マルシェイベント）
  - 都市公園を会場に毎月実施
  - 手作り雑貨や食品等の出店者が集う
  - 子育て世代を含む若者を都心に呼び込み
  - 公共空間を活用した社会実験も実施
- ◆ 空き店舗データ整備
  - 将来的な店舗開業につなげるデータ

## 2. 暮らす場としての魅力向上

### (1) 愛知県豊田市 女性に選ばれる都心づくり

#### 事業の成果と評価

- ◆ 中心市街地の賑わいに一定の効果
- ◆ 空き店舗の活用と創業促進  
MAMATOCO自体がモデルケース  
レンタルスペースやマーケットの出店者が実績を積み、隣接エリアで開業
- ◆ 子育て世代の定住意欲への好影響
- ◆ 収支改善と継続発展の観点で改善検討中



#### 福山市への示唆と活用可能性

- ◆ 女性目線の拠点づくり子育て中の女性が「行きたくなる・居続けられる」空間を用意
- ◆ 定期開催イベントで都心に人を呼び込む仕掛けは有効
- ◆ 行政主導だけでなく、地域の多様な主体（農家、子育て支援者、デザイナー等）がチームとして参画し、明確なコンセプトの下で事業開発を進めた



出所：中小企業基盤整備機構中心市街地活性化協議支援センター資料  
写真 豊田市中心市街地活性化基本計画

## 2. 暮らす場としての魅力向上

### (2) 富山県富山市 まちなか学生シェアハウス「fil（フィール）」

#### 事業の目的と背景

- ◆ 地方中核都市として公共交通を軸としたコンパクトシティ政策を推進
- ◆ 中心市街地から若者の姿が減少、特に大学生をはじめとする若者の郊外居住と人口流出が課題
- ◆ 郊外の学生を都心に呼び込み、交流を通じて街に愛着を持った人材を育成して、将来の定住につなげることを目的

#### 事業の内容

- ◆ 実施主体：(株)富山市民プラザ（三セク）
- ◆ 事業年度：令和5年度～
- ◆ 事業予算：16,000千円（R6年度）  
市予算＋家賃収入等
  - 地元企業39社が参加する組織（まちなか学生シェアハウスサポートクラブ）  
企業経営者との交流会、学生イベントへの資金提供。学生・地域一体となったまちづくり活動の体制を構築

#### 事業の内容（つづき）

- ◆ シェアハウスの整備（既存ビルの改修）
  - 学生専用シェアハウス32室
  - 食堂、コインランドリー（いずれも一般利用可）
  - まちなか広場
- ◆ 都心居住と参加条件
  - 富山市で学ぶ大学生等が入居
  - まちなかの活動に参加することが条件
  - 居住環境・家賃設定で魅力づけ
- ◆ 学生主体の交流プログラム
  - 起業のTOPと語る会など講演会形式ではなく、双方向のコミュニケーション重視（月1回）
  - まちなか学生EXPO 学生主体の学園祭イベント  
学生らが発案した企画展示等14店舗が出店  
学生がまちなかで創意工夫を発揮

## 2. 暮らす場としての魅力向上

### (2) 富山県富山市 まちなか学生シェアハウス「fil（フィル）」

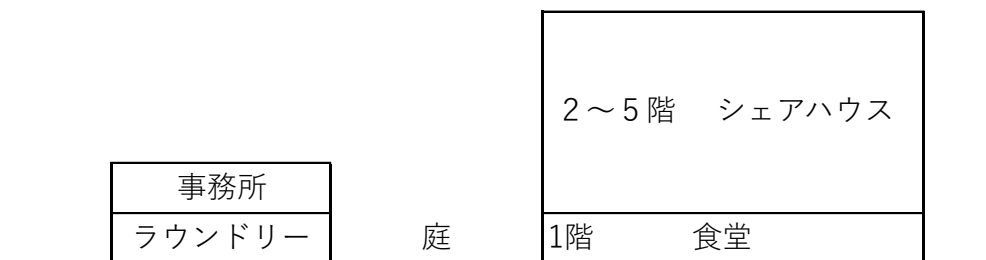
#### 事業の成果と評価

- ◆ 卒業生の市内就職  
学生に社会との接点が作られる場として、この経験が地元就職・定住につながったと評価
- ◆ まちなか賑わい再生の機運醸成  
fil発の企画を契機に、若者主体のまちづくり活動がみられるようになった  
企業等による支援体制はまちぐるみで若者を育て応援する一体感を醸成
- ◆ 都心が学生の活動フィールドへと変化
- ◆ 今後は活動の自走化が課題。一方で、2棟目・3棟目のfil開設で将来は400人の学生が都心に暮らすことを目指す

#### 福山市への示唆と活用可能性

- ◆ 若者に都心での暮らしと活動を体験させることで、地域への愛着と定住意向を醸成
- ◆ ハード面とソフト面の両面からの支援
- ◆ 大学や専門学校の学生に対し、都心居住の魅力化
- ◆ 産学官民の連携  
若者と地元企業・住民が交わる機会を制度化
- ◆ 地域とのかかわりを組み合わせた定住政策。金銭的支援と定住効果の違い？

「fil」の構成



出所：資料より作成

## 2. 暮らす場としての魅力向上

### (3) 北九州市 まちなか定住・移住推進事業＝住むなら北九州＝

#### 事業の目的と背景

- ◆ 1965年以降、人口の転出超過（特に若者流出）が続き、地方都市の中でも深刻な人口減少
- ◆ 特に若者、若年女性の福岡市へ流出
- ◆ 中心市街地の人口減によりまちの活力低下

#### 事業の内容

- ◆ 実施主体：北九州市
- ◆ 事業年度：平成27年度～
- ◆ 事業予算：数千万円（年度により変動）  
補助件数270件（2023年度）

#### 事業の内容（つづき）

- ◆ 若者・子育て世帯持ち家取得支援
  - 市が指定する中心市街地エリア内で新築・購入の場合
  - 市外在住～転入後2年以内等の要件あり
  - 住宅取得費を軽減し、Uターンを促す
- ◆ 若者・新婚世帯の賃貸住宅支援
  - 家賃の一部を一定期間（半年から1年間）補助する賃貸応援メニュー



## 2. 暮らす場としての魅力向上

### (3) 北九州市 まちなか定住・移住推進事業＝住むなら北九州＝

#### 事業の成果と評価

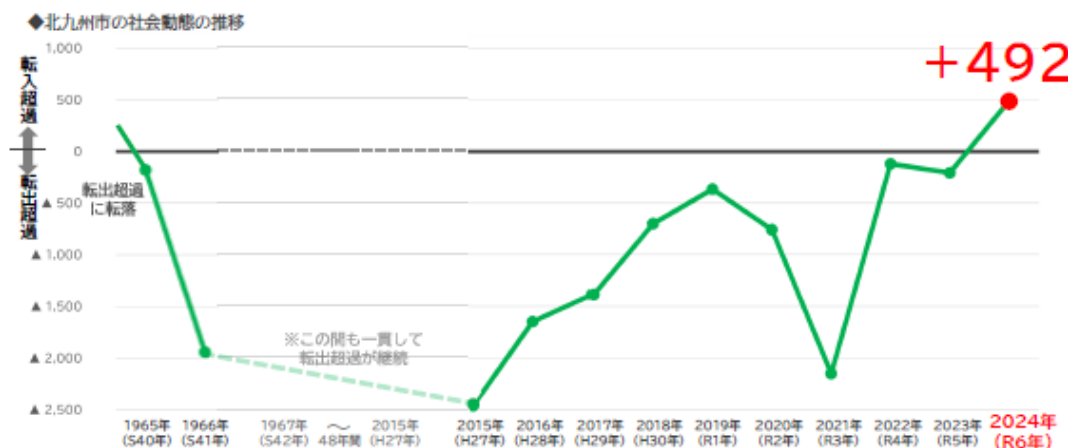
- ◆ 支援実績  
延べ100世帯以上が活用
- ◆ 中心部の転入超過数が緩やかに改善
- ◆ 若年女性の転出超過抑制  
市外転出超過数が減少  
直近で子育て世帯が転入超過に転化
- ◆ 市民意識にも変化  
「住み続けたい」と思う人が過去最高
- ◆ R7年度からは单身若者への賃貸補助や市内転居枠は廃止、より効果の高い市外転入者支援に集中。  
住むなら北九州は一定の成果を上げつつもハード支援だけでなく総合的なまちの魅力向上策を並行

#### 福山市への示唆と活用可能性

- ◆ ターゲットの設定と広報  
流出の多い属性に絞った対応  
まちなか居住に絞って支援  
対象者にとどくPR、広報
- ◆ 住宅以外のソフト施策との連動  
若者・女性が活躍できる雇用創出、子育て支援の拡充、魅力的な都市コンテンツ等

1964(S39)年以来

## 60年ぶりの人口転入超過



## V. おわりに

---

事例はあくまでも参考  
パッケージで導入するのではなく、視点、工夫等要素分解して取り入れる  
福山市の実情や目指す方向性に応じて、取捨選択が必要

# 施策検討にむけて

## 働く場の魅力向上

### ◆ 既存企業での仕事の創出

若者が希望する仕事と既存産業のミスマッチ

⇒ 企業からの業務改革により新たな職種の創出。若者・女性へのPR、知ってもらう

### ◆ 起業支援

希望する仕事がない場合、自らつくることを支援

### ◆ 若者・女性が志向する企業の誘致・育成（事例対象外）

希望職種の誘致、サテライトオフィス、コールセンター等

## （教育・意識変容・再評価）

### ◆ 新しいインターン

就業体験だけでなく、仕事と育児の両立について、体験

### ◆ キャリア教育

進路選択時から性別に捉われない職業観の醸成



# 施策検討にむけて

## 暮らし場の魅力向上

- ◆ 若い人が楽しめる、子育て層が楽しめるまちとは

- ◆ ハード面からの場づくり

  - 居場所、活動拠点、居住場所

  - これらの誘導策、支援策

- ◆ ソフト面からの場づくり

  - イベント、参加型・コミュニティ形成

## 関係者の連携

- ◆ 関係者の連携

  - 行政、民間企業、地元企業、大学・学校等

- ◆ 分野間連携

  - 子育て、教育、医療、産業、まちづくり等

- ◆ 継続的な取組